

地図の各画像ファイルは、必要になった時点でフレームメモリ上にロードされる。ロードに要する時間は約3秒である。画像のスクロールには、マウスにより移動するカーソルを使用する。

この地形図のスクロール表示には、歴史地理研究に対して、次の二つの機能を備えている。

ディスプレイの上半分に、任意の地点をスクロール機能によって移動し、そこにカーソルを置き、マウスのキーを押すと、ディスプレイの下半分に、過去の同じ地域の地形図が表示される。現在の多くの道路は明治年間にはなかったため、現在の地図をもとに過去を推定するのは危険である。

また、研究者は各自の注記を地形図に記入したくなる。その場合、任意の地点に十字カーソルを移動し、マウスのキーで文字列を記入することを指示する。

以上のように、パーソナル・コンピュータをベースにするシステムを用いて、歴史研究に適した開発を行ってきたが、上に述べた利用に関しては、十分に研究に役立つことがわかった。

千葉県における縄文貝塚のデータベース

明治大学 文学部 植 木 武*
統計数理研究所 村 上 征 勝

年間2万件を越える発掘調査が行われる昨今、毎年、膨大な考古資料の蓄積がみられる。個々の資料は発掘報告書を読めば良いのだが、量の急激な増加は、考古学者をしてデータベースの必要性を感じさせた。1980年代は、考古学界におけるパイオニアが試行錯誤を続けた時期であった。われわれも、縄文貝塚の資料をもとに、データベース作成の作業を始めた。

全国の縄文貝塚の16%を有する千葉県は、1980年から3年をかけ、調査指導員7名のもとに、多数の調査員を動員し、全県下をくまなく歩き、遺跡調査票を完成した。千葉県教育委員会は、これをもとに「千葉県所在貝塚遺跡詳細分布調査報告書」(昭和58年)を出版したが、われわれのロータス123を使ったデータベースは、この報告書をもとにしている。

種々の理由から、純粋な縄文貝塚のみをとり出すと、総遺跡数は403を数えた。これらの貝塚を、① 占地状況、② 利用状況、③ 形状・規模、④ 保存状況、⑤ 貝層の性格、⑥ 貝の種類、⑦ 時期、⑧ 土器形式名、⑨ 検出遺構、⑩ 出土遺物をもとに集計してみたが、今回はそのうち数点をグラフにして発表した。

今後の研究は、時期別あるいは占地状況別のモデルを作成することにある。東京湾沿岸を中心とする貝塚モデルができれば、他府県のモデル作成をうながすことになり、比較研究ができる。また、日本モデルとして、広く環太平洋にみられる貝塚とも、いつの日か比較できることになるだろう。

* 現 共立女子短期大学